

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」立松和平作

⑤場面「弟子になって～帰っていったのだ。」

本時の目標

- ・与吉じいさのもとで太一が一本づりの漁師として成長し、漁を任されている様子を読み取る。
- ・与吉じいさが語る「村一番の漁師」という言葉の意味について考え、ずっと海で生きていくために必要な生き方を伝えた上で海へ帰っていった与吉じいさに対する太一の思いを考える。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>⑤場面を読んでください</p> <p>太一が与吉じいさの弟子になってどれくらい経ちましたか。 その間、2人はどのように漁を続けてきたのですか。</p> <p>そんなある朝の2人の漁の様子を見ると、太一が弟子になったころと変わってきたことがありますね。</p> <p>与吉じいさは太一がどんな漁師になったと言いましたか。</p>	<p>③場面のときよりも立つ児童が増えている(ことを期待したい)。 指名された児童が音読(2～3名)</p> <p>何年もたった。 同じ瀬に漁に出ていた。 太一の父が死んだ瀬に漁に出ていた。 与吉じいさと太一の2人で漁を続けてきた。</p> <p>与吉じいさは船に乗ってこそきたが、作業はほとんど太一がやるようになっていた。 弟子になったころは、つり針にえさを付け、上がってきた魚からつり針を外す仕事をしていた。 弟子になったころは、つり糸をにぎらせてもらえなかった。 太一の漁師としてのうでが上がった。 太一が一本づり漁師として成長した。 基そになる仕事を身につけて一本づり漁師として仕事をするようになった。</p> <p>お前は村一番の漁師だよ。 ここはおまえの海だ。 漁の技術が高い漁師。 一本づりの漁師としてのうでを上げた漁師。 たくさんの魚をとれる漁師。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(1.4.5班に期待) ・やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。 ・前時の音読時と絡めて前向きな姿勢がいっそう感じられるようになった部分を見つけて評価していきたい。 ・せりふの意味については、太一の成長を確認できた後に考えさせていく。 ・つり糸をにぎらせてもらえなかったことをふり返る児童が出てくるかもしれない。(km, NT, KH?) ・太一がする仕事の内容の変化が何を意味するのかということを確認していく。(この内容をつけたしていける児童はまだおそろくないだろう) ・与吉じいさの言う村一番の漁師がどんな漁師のことなのかを考えさせる。(「ここはおまえの海」という表現も意識させながら考えさせていきたい) ・ただ単に漁師の技量だけのことを与吉じいさが言ってるのではないことに気づいてほしい。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>それから与吉いさの行動はどのようにかわっていききましたか。</p> <p>船に乗らなくなった与吉いさに太一はどうしましたか。</p> <p>毎日漁の帰りに与吉いさをたずねていた真夏のある日、太一は何を見ましたか。</p> <p>太一は何をさとったのですか。</p> <p>与吉いさの死をさとった太一はどんな表情をしていますか。</p> <p>そんな与吉いさに太一は何と声をかけましたか。</p> <p>◎場面の予告 ある日、母は～興味を持てなかった。</p>	<p>千びきに一びきを考えながら漁が出来る漁師。</p> <p>自分のうでで漁をするのではなく海に与えてもらってると考えられる漁師。</p> <p>船に乗らなくなった。</p> <p>乗れないわけではないけれど乗らなくなった</p> <p>(一本づりの)漁を太一に任せるようになってきた。</p> <p>太一にはもう教えなくても大丈夫と考えられるくらい太一が成長した。</p> <p>漁から帰ると、毎日魚を届けに行った。与吉いさに一本づりを教えてもらったおかげで漁師として成長できたから。</p> <p>与吉いさが暑いのに毛布をのどまでかけてねむっていた。</p> <p>与吉いさが亡くなったこと。</p> <p>与吉いさが海に帰っていったこと。</p> <p>悲しそうな表情。</p> <p>悲しみながらもありがとうと感謝しているような顔。</p> <p>与吉いさが海に帰っていったことを素直に受け入れている。</p> <p>おとうが亡くなったことも与吉いさと同じように受け入れられている。</p> <p>「海に帰りましたか。与吉いさ、心から感謝しております。おかげさまでぼくも海で生きられます。」</p> <p>与吉いさやおとうがそうしてきたのとおなじように。</p> <p>自分の先祖がずっとそうしてきたのとおなじように。</p> <p>海から与えられるもので生きていける。</p> <p>海で生きていける。</p> <p>海とともに生きていける。</p> <p>海にめぐまれて生きていける。</p> <p>千びきのうちの一びきをとりながら海と暮らしていける。</p> <p>.....</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「村一番」だけを手掛かりにして考えが深まりきらない場合は「おまえの海」という表現も意識させてみる。 • 「乗らなくなった」と「乗れなくなった」を比べることから与吉いさが漁に同行しなくなったわけを考えさせる。 • 与吉いさの心情と太一の成長の両面か船に乗らなくなったことをとらえられることを期待したい。 • 太一の行動から与吉いさに対する思いをくみとらせたい。(つけたして太一の心情を語れたら大きく評価) • 「海に帰っていった」という表現についてどんな意味が込められているのか考えさせる。 • 「ぼくも」の意味と「海で生きる」ことの意味を両面考えさせたい。 • 多様な発言が出てくるように自分なりの言いかえを自由にできるような声かけをしていきたい。